本愛

発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL（052）461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL（0743）62-0378
編集責任　広報部

年間活動目標
創立110周年に向かって
今日を陽気に。
おつとめ　おたすけ　ひのきしん

学生層育成者講習会
清水慶政氏 講話要旨

大教会で2月13日に行われた学生層育成者講習会には、本部学生担当委員会委員で兵神大教会長の清水慶政先生が登壇された。講話の要旨を掲載する。

本日は、私が学生や若者の丹精に当たる中で得た「三つの気付き」について、お話ししたいと思います。それは、「信仰は信念によって導かれる」「信仰はふしの中で育つ」「仲間や思い出が信仰をつないでくれる」の三つです。

一つ目の気付きをくれたのは、少し前に教会でお預かりした二人の女子青年でした。二人とも簡単な約束を守ることができず、いくら諭して聞かせても、全く生活態度に変化がありませんでした。一人は心の病を患っており、もう一人も難病を抱えてはいたものの、妻は一向に成長しない二人に心が折れかけていました。

そんなとき、思い出したのが私の青年会本部時代のことでした。実は私は当時の青年会長様に対して、心の距離から来る小さなわだかまりを感じていました。そんなとき、偶然にも二人でソフトクリームを食べる機会があり、会長様がたわいもない会話をしてくださった時間が、私のわだかまりを解くきっかけになったことがありました。

そのことを思い出し、妻にはどこへ行くにも二人を連れて行って、甘いものを一緒に食べてはどうかと提案しました。妻はその「作戦」を根気よく実践してくれ、その結果彼女たちが胸の内を明かしてくれるようになったのです。いまでも二人は妻を慕ってくれています。妻の信仰信念が実を結んだのだと思います。

若い人材を教え導くことは難しく、諦めてしまいたくなることもあります。だからこそ「育てる」側に「信仰信念」が必要なのだと痛感した出来事でした。

また、学生生徒修養会の御用を務める中で、ある若いスタッフの姉弟の父親が危篤状態となったことがありました。姉は悩み抜いた上で、おぢばで父親のたすかりをお願いさせていただきたいとの決心を聞かせてくれました。結果的に彼女には父親の側にいてもらいましたが、その真実をお受け取りくださったのか、その後父親は無事退院するご守護を頂かれました。

私自身を振り返っても、10代や20代の頃は大きな責任もなく、普段の生活の中で神様におすがりしなくてはならないようなこと自体が、現代ではそれほどありません。信仰の必要性を感じないことも、仕方のないことでしょう。

しかしその後の人生で「ふし」に直面した時、信仰は必ず必要になります。そのときのために、たとえ今はわからなくても「つなぐ」ことが大切なのだと思います。

悩みや不安を共有できる人。それが仲間です。学修などの行事は表向きは教理を治める場ですが、それ以上に仲間との思い出を得ることができる場です。そこにこそ、おぢばでの行事、各教会での活動に参加する意義があると思うのです。

コロナ禍で直接触れ合うことが難しい中ではありますが、なおさらその重要性が高まっていると感じます。私どもも精一杯務めさせていただいておりますので、今後とも学生会等の活動にご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

現代に生かす「用木の道」

文・安藤吉人

先日、あるおたすけ相手の方とやり取りをする中で、人間思案では考えられない不思議なご守護をお見せいただきました。

親神様のお働きは、ごく身近に感じられることもありますが、人間が思いつくことのできる考えと、親神様の思召との間には、やはり途方もなく大きな距離があります。ある先人の先生は「親神様と人間との間にある『差』に思いを致すこと、それが『悟り（差・取り）』なのだ」と仰っておられました。

安藤正吉・初代会長様の教えはまさに「悟り」の連続だと言えるでしょう。今回はこの「悟り」について、考えてみたいと思います。

陽気に悟ること

前回「出直し」についてこの連載とユーチューブで取り上げたところ、ある教会長さんが「ある方が出直される直前、今考えれば『虫の知らせ』のような出来事があったことを、動画を見て思い出した」と話しておられました。その教会長さんは「あのときはそのことに気づかなかった。すぐにおさづけに駆けつけていれば……」と悔やんでおられました。

ところで、初代会長様とその教えを受けた先人の先生方が残してくださったお話の中には、迷信のように聞こえる話がいくつかあります。たとえば「家の中でネズミを見たら、我が身思案に問題がある」「家でヘビを見かけたら、色情に気をつけなければならない」といったもので、これらは一見すると合理的な理由に欠けるように見えます。

それらが正しいのかどうかは分かりません。しかし、先人たちは普段の暮らしの中で起きる実に些細な出来事にまで、親神様の思召を探ろうとしました。それは言い換えれば、どんなことも親神様のメッセージだと受け取るということでしょう。それが「悟り」なのではないでしょうか。

私は、そのようにして親神様の思召を考えるとき、「陽気に悟る」ことに気をつけています。親神様は、子供である私たちに陽気ぐらしをさせてやりたいと、常に人生を良い方向へ導いてくださっているはずです。

だからこそ「こんなことがあったから、きっと何か悪いことが起こるに違いない」というネガティブな方向ではなく、「どんなうれしいことが待っているのだろう」「何か良いことが起きるはず」とポジティブに考える。たとえ一時は喜べないことが起きたとしても「この先には必ず良いことが待っている」と考えるのが、一般的な迷信などとは決定的に異なる、お道の信仰ではないかと思うのです。

それは「喜ぶ努力」とも言えるかもしれません。「これをどうやって喜ぼうか」「どう悟れば、喜べるだろうか」。そのように考えること、そのようにして人生を歩むことが、幸せへの何よりの近道なのではないかと感じます。

5月のこよみ

入社祭
1日　午前10時
祭典終了後、縦の伝道講習会

よふき会例会
2日　午前10時

月次祭
13日　午前10時

青年会例会
13日　午前10時

布教実修所
14日　午前10時

むつみ会例会
16日　午前10時

こども食堂ＭＯＧＵ
17日　午後５時

婦人会本愛支部第92回総会
20日　午前10時

ほんあいＯＫＥＩＫＯ
22日　午前10時

こはる会例会
24日　午前10時

女子青年例会
24日　午前10時

本部月次祭
26日　午前9時

教理随想

言わん言えんの理を探る

【第89回】

教えを土台に本物の成人へ
誠真実を日々積み重ねよう

快適な気候に誘われて外へ出かけたくなる五月。青空にこいのぼりが泳ぎ、野山にはツツジ、フジ、ボタンなどが咲き始めます。十月も気候は快適ですが、五月の方が明るいイメージが強いのは、日照時間が四割近くも長いからです。一年で最も爽快なこの季節、心明るく陽気ぐらしの信仰を謳歌したいと思います。

さて、おふでさきに、

にちくにすむしわかり
しむねのうち　せゑぢん
したいみへてくるぞや
（六―15）

と教えられます。

いうまでもなく成人とは、修養科を修了したとか教人登録を終えたとか、また何か役職の長になった、などということを意味するものではありません。教祖はどこまでも心の在り方を示しておられるのです。

私たち人間は、親神様から身体を借りてこの世に生きています。それもただ借りているだけでなく、火水風の恵みの中で食物や水分を摂取し、体内では消化、吸収、排泄の働きが行われ、さらには呼吸や血液の循環によって生命が保たれている。仕事や生活、そして様々な人間関係はすべてその上に成り立つものであります。

この事実をふだんの生活でどこまで真剣に考え、ありがたさを実感しているでしょうか。そこに、

にんけんハみなくゝ神の
かしものや　神のぢうよ
ふこれをしらんか
（三―126）

とのお言葉を重ね合わせて思案する時、教祖が「成人次第見えてくる」と仰せられる意味が分かってきます。つまり教えを知らない人は、生きていることを当たり前と思い、火水風のご守護を「自然」という一言で片付けて、それに感謝することすら知らずにいます。しかし、いち早くお道に引き寄せられたお互いようぼくは、教祖から「かりもの」の教えを聞き、感謝の心と共に、そのご恩に報いる道を教えていただきました。初めは耳で聞き頭で知っているだけの教理が、年限と共にだんだん胸に治まり、ご恩報じの行いが身に付いて、自然に実行できるようになることが本物の成人であって、その精神が、にをいがけとおたすけ、またおつくしの土台になっている姿。これこそ教祖がようぼくに望んでおられる成人の姿に他ならないのであります。

■日々の理にある

今一つ、心の成人に欠かせないのは日々の積み重ねであります。これは信仰の土台を固める上でも重要なことで、日々の積み重ねを疎かにした土台は、建物でも植物でも少しの風や揺れですぐに倒れてしまいます。

おさしづに、

日々の理、月々の理、年々の理、治める理治まらん理、日々の理にある。
（明治23年11月14日）

と教えられるように、信仰の世界で日々の理ほど大切なものはありません。毎日のおつとめを真剣につとめて心に理を深め、一日一度は病む人におさづけを取り次いで、たすけ心を培いながら歩む日々の積み重ねの中に、身上や事情が不思議と治まる鮮やかなご守護が現れるのです。

コロナ禍の出口はさほど遠くないところまで近づいてきました。来年からは教祖百四十年祭への三年千日が始まります。初夏の光を身に受け、移ろいゆく季節の中に親神様のご守護を感じながら、生かされているご恩を人だすけの実践に現わす決意を定めましょう。そこに本物の成人をめざす歩みが生まれ、信仰の確かな土台が築かれていきます。

今こそようぼくは、心定めの完遂めざして一層の誠真実を尽くすことを誓い合いたいと思います。

教会長資格検定講習会
修了者
（令和４年４月16日付）
本　宏（本宏津）久野祐伺郎
以上１名

教会長資格検定合格者
（令和４年４月17日付）
本　宏（本宏津）久野祐伺郎
以上１名

第120回教人資格講習会
修了者
（令和４年４月10日付）
本　知（本正徳）水野ひなよ
以上１名

２月の初席者
本　心（本孝心）瀧　健一朗
以上１名

３月の初席者
本　心（本蟹江）加藤　蒼
〃　（〃）前野　安泉
本山王　橋本　竜太
〃　犬飼　楓
以上４名

事情おはこび
（令和４年３月26日付）

本穂分教会
◎任命願
前会長・桑子保氏の辞職に伴い、桑子彰氏が会長の理のお許しを戴いた。

桑子彰氏

（桑子氏の略歴）
昭和60年８月17日生まれ
平成15年11月24日おさづけの理拝戴
平成22年11月26日教人登録
〔奉生慶〕令和４年５月４日

本徳分教会
◎任命願
前会長・相原貞子氏の出直しに伴い、相原知宏氏が会長の理のお許しを戴いた。

相原知宏氏

（相原氏の略歴）
昭和49年11月12日生まれ
平成４年12月20日おさづけの理拝戴
平成20年６月25日教人登録
〔奉生慶〕令和４年５月22日

おめでた

吉田智秋氏(32)（本知分教会長・吉田正信氏長男）は、大教会長夫妻の媒酌により宇井富貴子さん(32)（東愛大教会部属・足助分教会長・宇井喜洋氏長女）との縁談相整い、去る２月23日、本部教祖殿において、夫婦固めの盃をかわした。

お出直し

瀧　帛子氏（本心部属・本孝心分教会三代会長）
３月30日に出直された。享年90歳。告別式は４月１日午前10時より、長江邦彦・本心分教会長を斎主として執り行われた。

大教会日誌
令和４年３月25日～令和４年４月24日

３月
25日　修養科志願者面接（於・本愛詰所）
26日　本部月次祭
28日　春の学生おぢばがえり
31日　常任役員会議◇役員会議

４月
１日　入社祭
祭　主・大教会長　扈者・桑子保、山神茂彦
指図方・大倉八郎　賛者・塚原光男、鈴木真也
◇祭典講話―加藤成幸
２日　よふき会例会
12日　常任役員会議
13日　月次祭
祭　主・大教会長　扈者・安藤正二郎、板山眞一
指図方・大倉八郎　賛者・出口邦郎、野田正樹
◇祭典講話―三浦雅彦氏
（本芝大教会・本活分教会ようぼく）
◇大教会長挨拶
青年会例会
14日　布教実修所入所式
16日　むつみ会例会
17日　ほんあいＯＫＥＩＫＯ（参加者９人）
こども食堂ＭＯＧＵ（参加者48人）
18日　教祖誕生祭
19日　天理教婦人会第104回総会（於・本部中庭）
24日　女子青年例会